

妻籠城址

戦略的な場所に位置する山城

妻籠城は、自然の地形の防御的利点を利用して山に作られた要塞、山城でした。妻籠城は戦略的に有利な場所に位置していました。この山城は、東西に延びて京都と江戸を繋ぐ 2 本の主要街道のひとつに位置し、三面が川や窪みに守られ、その最高地点は堂々の 420m という高さでした。当時、妻籠城を囲む丘は皆伐されていたと見られており、侵入者は山城から放たれる銃弾、矢やさらには丸太から身を隠すことのできる自然物が何にもありませんでした。

妻籠城は、全くの防衛拠点であり、大名がここに住んだことはまったくありませんでした。ここの構造物に関して言えば、数棟の小屋や倉庫と、最も内側の主郭の物見櫓 1 棟のみがあったと思われ、この城址を散策すると、空堀や曲輪、帯曲輪や、主郭の外縁の土塁などの当時の防衛施設の跡が見られます。

妻籠城の歴史は室町時代（1336 年～1573 年）中期まで遡りますが、その最盛期はおそらく、この地を治めていた領主、木曾義昌の家臣、山村甚兵衛良勝率いる 300 名の兵が、7,000 名からなる軍隊を撃退した 1584 年だったと言えるでしょう。その直後の 1590 年に、関白に就任した豊臣秀吉が当時の木曾藩の支配を手中に収めました。また、徳川家康の息子、徳川秀忠の指揮下の軍は 1600 年の天下分け目の関ヶ原の戦いがあった時にここで野営をしていました。（秀忠が関ヶ原の戦いに遅参したことが家康を激怒させました。）妻籠城は、各大名の領国の城をひとつに制限する徳川幕府の一国一城令により 1616 年に破却されました。